（昭和十二年十月二十日 第三種郵便物認可）　昭和十九年九月二十五日（月曜日）　小樽經專 綠丘新聞　北方經濟研究所 廿五日發行　第百八十七號　693　（1）

北方經濟研究所報
綠丘

本紙一部 金六錢
一ヶ年購讀料郵稅共九十錢
編輯兼發行人 小樽市稲穂町五ノ四十一 横田弘之
印刷人 小樽市緑町四ノ四 永井猶次郎
印刷所 株式會社 大陽合印刷所
發行所 小樽經濟專門學校 北方經濟研究所
電話三〇六番 振替小樽…番

座談會 經濟科學の新動向

主催 北方經濟研究所
日時 九月五日午後五時
場所 本校學生會館
司會者 丸山泰男
出席者（發言順）
高橋次郎
南亮三郎
木曾榮作
長尾義三
室谷賢治郎
玉井武
宮澤光一
横田弘之
鳥谷剛三
（以上本所々員）

一、皇國經濟學の立場

＝果して理論經濟學として成立するや否や＝

經濟科學の綜合化

丸山 今日われ〳〵の經濟學に與へられてゐる現實の問題は殆んど枚擧に暇がない程複雜多岐に亘つて、文字通り未曾有の問題となつて居ります。さうした具體的な諸問題に就いては、今後實際界の人々を交へて大いに研究調査等をやりたいものと考へて居ります。然し今晩はその手始めと致しまして主として基礎理論の立場から、最近の新しい學界の動向と云ふやうなものを伺ひたい。

時に今まで自分の專門以外のことは知らないと云ふことがむしろその研究の專門的な深さを示す意味に於て、謙讓であると同時に自慢でもあつたと思ふのです。しかし今日では決してほめた話ではなく、反つてさうした孤立した專門研究のみによつては、自分の研究領域すら正しく把握することが出來なくなつて來た。從つて我々の共同研究と云ふことが今後益々必要だと思ひます。さういふ意味で自分の專門領域だけに止まらずに最近の理論的方向なり、我々相互の立場なりに就て具體的な御批判や御意見を承りたい。そこで先づ序論として最近顯著なる二つ三つの經濟一般に關する新理論を研究して居られる高橋さんから經濟科學全體の新しき動向と云つたやうなものを御話し願ひたいと存じます。

高橋 經濟學は凡ゆるものを綜合せしめた。事實の世界も、學問の世界も。事實の世界では「統制經濟」の問題が採られ、それが實際に實施する見通しをも持ち得ると思ふ。そこで、この「統制經濟」なる現實の事實の前にわが經濟學は如何なる態度をとるべきか。これが今日經濟學に課された最も大きな問題である。

抑々經濟學は技術論を越えて經濟學たる可きことを云へる。云ふまでもなく技術論とは一定の實際的目的を實現に役立つべき手段の論である。從來の重商主義、官房學の學はわが經濟學に於ける技術論の支配であつた。然し經濟學の成立と共に、凡ゆる領域で技術論がその數を增し、商業學、銀行論、交通論、財政論、保險論、經營經濟論、國民經濟論などが誕生した。此の專門的分業の結果、各々の部門は理論的な技術學を脫げ各々理論的科學へと獨立する傾向を示した。然し「統制經濟」の段階に入つてからは、その經濟政策の特殊性たる綜合性によつて、經濟諸學も專分離から綜合への動向を强く示しつゝある。これを繞つて、こゝに種々の新しい重要なる問題が提起して來たのです。

斯かる綜合化の動向の中心をなすものは經濟理論に外ならない。そこで、在來の經濟理論は如何に反省さる可きか、自由主義經濟學、個人主義經濟學、純粹經濟學と呼ばれるものが批判せられて、何が現はれなければならないか。これに代る可きものは、統制的、國家的、政治的性格を帶びた經濟理論でなければならない、と思ひます。

そこで、先づ一度分裂せる經濟諸學が綜合化のために歸趨すべき中心に横たはる經濟理論（原論）が、斯かる事態に直面して如何なる在り方を示すべきかを問ふことをもつて、問題の端緒となすべきではあるまいかと思ひます。

丸山 今經濟理論の在り方に就て綜合されなければならないと云ふ御話がありましたが、此の點に云はば既成理論の危機、搖ぎが現れたのだと思ひます。經濟、政策、會社、統制、經營等今日一般の問題に經濟部門があるのか、また經濟部門が無いと見るのが良いのか、それとも、新カント流式に範疇とか概念とかの中に形式を見出し得るかどうか、此の點問題があると思ひます。

南 どうもそれは餘り大きすぎて……

高橋 その問題は大分重要だから、後に廻した方が良い。

丸山 それではその問題は一應高橋さんの御話を伺つた後に保留することに致しまして、此處で居られる南さんから、皇國經濟學の定義及び性格について、特にそれが、既成經濟學と一體どう云ふ關聯をもつて居るか、又更に廣く經濟學の論爭の行はれてゐる理論經濟學と政治經濟學と戰爭經濟學の三つの方向が考へられるとすれば、それらは一體如何なる關係にあるかと云ふやうなことについて御意見を伺ひたいと思ふのですが。

經濟學界の三方向

南 最初の高橋さんの御話では統制經濟の內容が現實經濟に於ける經濟理論の問題であるとのことですが、學問の點から云ひますと、更に遡つて、もつと一般的問題にする必要があると思ひます。此の點ではひところ矢張しく云はれた政治經濟學が問題になると思ひます。無論、現在では餘り實際的效果を擧げることなく影を潜めましたが、それよりも、之に對論されるものとして再燃されるものが二三あると思ひます。その一つは國家と云ふ立場を經濟學の中にどう云ふ風に採り入れるか、といふことで、之は國家の政治的要素をもつと尊重化することであり、ゴットル的立場に立つものと云へると思ひます。もう一つは、中山さん、難波さんの提唱する戰爭經濟學、乃至國防經濟學であらうと思ひますが、これも將來どうなつて行くか、問題であらうと思ひます。第三のものを把握するならば、第一の國家の立場をもつと限定し、國家一般ではなく、之を特殊的に限定して、我々の住つてゐる皇國の立場から經濟を把握することが可能であると致す立場であると思ひます。

論は大東亞戰以後經濟學の文獻が出版えてゐる關係上、國內文獻に限られねばなりませんが、まづ第一の國家的方向としては我國では神戸の宮田博士の著作があります。之は精神的前提としましては今迄の著作に比して遙かに精神的であり、內容も具體的意見があり「國家」が血の流れた樣に把握せられて居りますが、今後これが何處迄引き延ばされるかが大きな問題であらうと思ひます。

之に關聯して、第二のゴットル的立場は――之も我國內の支持者達の著作に限定して申しますと――宮田氏を除き、大部分は何れもゴットルの一般的支持、解說、翻譯に盡きてゐると思ひます。殊に熱心な支持者である早稻田の酒枝さんあたりを見ると、『經濟』の點では稍詳細的なものを認めては居ますが、所論の內容はヨーロッパ的思惟形式が盛られ、換言すれば、西洋的人生觀即ち暗い人生觀と非常に關聯的なものが論述の根底に見られます。結局、斯かる見方は個人より出發し、ルソー、カントより發展した見方がゴットルに傳はりましたもので、此の考へ方が清算されない限り、如何に形を變へても、我々の目指す國家的經濟學が出て來ないと思ひます。此の點宮田さんは之から拔け出た良い點があると思ひます。

第三の國防經濟學でありますが、先程高橋さんのお話にもある通り、どの部分が、つまり戰後に於て戰爭經濟學、國防經濟學のどれが殘るか、此等代表者の主張する全面的戰爭經濟の切替がどの役割を果すかは疑はしいのであります。殊に中山さんの『戰爭經濟の理論』の中味を見ますと――現だアレツケではありますが――例へば戰爭と云ふ現實が起り、在來の見解をたゞ當て嵌めたに過ぎず、戰爭が終熄すると、理論の中味は元の位にかへるのであり、之が果して發展するや否や疑問があらうと思ひます。

斯う見ると、戰時、新時代の要望に應へて出たものとして、國家を『權力』に變へた第三の經濟學が一番切實な課題とならうと思ひます。現に此の立場がどう在るかは、ホンノ僅かの時間では云ひ得ませんが、今日色々の所論が出て居りましても、本當に私の納得の行くものには出遇つては居りません。「皇國經濟學」と云ふ本がありますが、此者の問題とするものではない樣に云はれて居ります。然も穩健な立場は作田莊一博士の「國家の道」及び「經濟學の原理」の構造を論ずる「皇國經濟學」のものでありまして、神戸商大……があります。恐らく此の論は作田博士がリーダー格であらうと思ひます。從來の經濟學と日本の經濟學と何處が違ふかと云ふ問題を提起し、作田博士は國家主義に經濟に於ける全體の地位への方の轉換を指摘し、皇國經濟學の進むべき道を示してゐます。

私自身どう云ふ態度を持つてゐるかは暫く保留したいと思ひますが、此の三つの方向の中で第三の立場が何處迄發展するかを見守りたいと思ひます。尤も此の事は、ひとり經濟學のみに限らず、此の神戸商大の文獻を見るに、經濟學、經營學、財政學に於てもさうであり、此の點で夫々の專門家の立場をお聞きしたいと思ひます。

經濟理論の抽象性

高橋 私が統制經濟を問題にせねばならないと云ふのは、それを此の國で具體的な問題として採り上げるのではなく、抽象的に一般的理論の問題として採り上げねばならないと云ふのである。此の場合に於ては統制經濟を惹き起した「力」としての政治學とか國家とか云ふ觀念……、具體に現れる國家の經濟的現象と云ふ樣な要素が我々の經濟の上に現實の問題として登場して來て居るのであるから、斯かる事に、たゞ單に自由經濟の理論だけに依存せずに統制經濟の理論をも問題としなければならないと云ふのです。從つて南さん擧げた三つの方向はみな統制經濟と云ふ現實問題に依つて發生した新しい理論的方向を示せんとするものに他ならないと思ひます。それから、戰後も統制經濟が殘るかどうかに疑問が持たれてゐる限りですが、戰後に於いても無論問題は殘るでせう。但し、戰爭の時の樣に全面的にではありませんが、戰後もやはり統制經濟と云ふものの綜合が我々の經濟理論の課題となると思ひます。

南 然し高田保馬博士が述べられた、「統制經濟の日本的性格」といふ研究テーマから考へてみても、現在國家の要請する經濟學は國家經濟學ではないだらうか、當然統制經濟の理論に於けるも、もう一步踏込んでそれ自體を分析しその機能を解明するものが今の經濟學としての立場とすべきであり、つまり統制經濟そのものを問題的に考へる事が基本だらう。即ち統制的立場が皆統制かどうか先づ第一に問題になるべきだと思ふ。

高橋 凡ゆる問題に於て皇國を中心とする研究は現在國家の要請するところである。つまり日本經濟學を建て欲しいと云ふことだらうと思ひます。

丸山 皇國と云ふ立場を經濟學の中に取り入れることとですが、この場合、日本經濟の特性特質を考へるに當つて、理論を實踐的に構成してはいけないのでせうか。

南 此處は問題であらうと思ふが、何と云つても我國を如何に發展せしむるかの實踐的要求が第一であり、それと學問の客觀的性格と如何に調和せしむるかが問題です。大體、學問的要求から見るとではなく、現實の問題から生れたものであるから丸山さんの提に直截的には考へられないと思ひます。

丸山 しかし私は本質的な性格の研究ではなし、經濟も理論として研究して行くべきだと思ひます。

愛國的情熱は現在誰でももつてゐるのであるが、しかしそれは研究の背後にあるべきもので、むしろ直接に理論化しない方が良い。理論の中にとり入れやうとするから固定した國粹的なものになつてしまふと思ふ。結局出發點の……を行はば結果で現在は理論よりも國體の問題が考へられるのであり、經濟は理論化さるべきだと云ふことになるのではないのですか。

高橋 學問をする場合に於ては國民日本の現實の上に立つて、而も學問をする以上は學問的に客觀的立場を採る必要があります。作田さん自身なども斯う云ふ步みをしてゐるものと思ひます。

南 斯うした學問的狀況はひとり經濟學のみならず、經營學や財政學でも大きな問題であり、凡ての學問部門に於て直面しつゝある問題でせうから、其の方面の御意見も伺ひたい。

丸山 英國的經濟學とか國民的經濟學と云ふことが、よく云はれますが、もしそれらが經濟であるとすればそれは單なる經驗や實踐を超えた點にあつたと思ふ。たとへばアダム・スミスの經濟學にしても技術的であり實踐的であると共に客觀的に理論化されてゐる點があつたが故に、今日まで研究されて來たのだと思ひます。

木曾 然らばさうですれば、例へば我國の纖維工業特に綿工業について見ますると、之は明治時代に輸入産業として發生したものでしたが、その後、輸出工業となり日本獨特の經營機構を樹立するに發展しました。此の段階を經ますと、この工業は最早や完全に日本的産業に轉換してゐるものと云ふべきでせう。之と同樣に、輸入科學として出發した經濟學も、在來認識の研究として發展し、更に科學の認識方法が自覺されてき、研究、日本的地盤に於ける經濟學的認識が含まれてきてゐると思ひます。

歷史への反省

高橋 ドイツ經濟學が叫ばれた當時、現實のドイツの統制經濟を述べることが恰も當然と云ふ樣に思はれてはならない。理論はむしろ事實に潜む本質的なものに向はなければならない。凡て、現實の經濟では、それが抽象的な點にまで高まつて居らぬが、其の點之を超えて歸えねばならない。

丸山 しかし今日の如く既成理論が既に役に立たずこれに代るべき新しい理論が求められてゐる時代、然も新しい理論を作り上げるよりも、むしろ一步退いて歷史に沈潜し、そこから出發すると云ふことが必要なのではないでせうか。その意味で私は歷史への反省がもつと行はれるべきと思ふ。歷史を離れて直ちに形而上的なものを追究するから、ドグマになる。難波田氏の「國家と經濟」なども歷史を意識的に採り上げてゐる點は良いと思ふ。

南 妥當ですれ、合理的に歷史的ではなく、「傳統」歷史的でなければならない。やはり歷史に於ても單に日本的特色が要求されなければならないと思ふ。

丸山 如何にも同じ歷史でも觀方によつて違つて來る。然し歷史に對する場合は、あくまでも主觀的な態度で客觀的一般的でなければならない。それが却つて特殊性を明らかにする所以だと思ふ。たとへば難波田氏などは日本經濟の特殊性を强調して居るが、それが果して經濟生活と內面的に根本的にまで結びついてゐるかどうかは問題だ。

南 歷史であるが故に特殊的であり日本的でなければならぬ。その點若い人の樣に完全な抽象性の論理を求めるわけには行かないと思ふ。

求心と遠心の二つの方法

高橋 凡ゆる時代に「綜合」は必要である。しかし、理論家が此の大なる統合的運動に直面して「理論」を確證するのは非常に困難な道を步む事と、此の爲に經濟學は特殊具體的問題を理論的に明かにし得ても、抽象的理論を缺くに憾みが多い。且つ經濟學も日本的原理を求むべきであるが、その道は既に日本の經濟や古典への關係に限定する可きではあるまい。私は、日本的經濟學の追求は二つの方向に於いて可能だと考へる。第一は、之を日本の中心に向かつて求める事である、第二は之を廣く世界に向かつて求める事である。第一の方向については問題がないが、第二の方向に對しては更に議論されなければならない點があると思ふ。然し、日本が世界的日本として日本的であると共に世界的であらうとすれば、この第二の方向も亦許さる可きではなからうかと考へられる。

吾々は勿論第一の求心的方向に於いて祖國の經濟の姿を眺めその本質的な意義を把握する仕事に立ち向はねばならぬが、同樣にして得られた理論は日本と同一條件の下にある他國でも作用するものであることを忘れてはならぬ。從つて、又反對に、獨逸人の手に成つた理論であつても同一條件の下に於いては日本でも妥當する事になる。從來、西洋の學術に影響して居たと云はれる日本の經濟學が、純粹理論に步調を合はせるならば、その時こそ日本經濟學が理論的に確立を見ることが出來ると思ふ。此の樣にして求心に向ふ研究の結果と遠心に向ふ研究の結果とが、遠い將來には必ずや一致點に到達すべきであり、またさうあつてこそ日本的原理がやがて世界的原理となり得るのであり、日本が直ちに世界的日本となり得るのであるのだから、餘り我見を狹くしないで、眼界を廣くし知識を世界に求むべきではないでせうか。こんなことを今更問題としなければならぬとは、實に驚いたものだ。

南 然し中山さんが、戰爭經濟を初期にとり上げそれに沒入して行つた態度には非常に示唆される點があると思ふ。今二つ國の經濟が問題になりましたがそれよりもむしろ經濟が總てをかなぐり捨てて一億國民の中に融入するものは良いが、我々の歷史を見る場合のみならず、後の事に於ても必要であり、更に進んで國防經濟も外國からの「ナチス」だと思ひますが、之も日本的性格が要求されて居り、また、組織や價格の問題にしても、一たん國民の中に這入り込み其處から一般への干渉が可能であるか、不可能であるかを求むべきものであると思ひます。

丸山 その日本的性格の求め方が大事な問題なのですね。その方法が何の缺點にもならず、むしろ大切ですが、同時に高橋さんの提唱の如く國民の中に這入り込むと共に、それを超えて外から對照を掬び上らせてゆく事も大切なことではないでせうか。從つてたとへば統制經濟を日本的に明らかにするためにはやはり外に他のものを見なければ分らないと思ふ。

木曾 統制經濟の出現により統制經濟の理論が成立した後に於て、各國の統制經濟相互間の經濟比較及び統制經濟と自由經濟との關係などが問題となつて來る。その場合これを規定する經濟原理といふものがあるべきだと思ひますが、この場合、日本的經濟原理と普遍的經濟原理との關係は如何でありませうか。

高橋 その意味では日本的であると同時に世界的な乃至普遍的な經濟原理が必要になる。

長尾 一體學問や文化一般に於て動と反動とはジグザグに繰り返されると云ふことは常態で、そこから結局中正の道が自づと開かれて行く。然し夫々の說きたてる人の側から云へば自分こそジンテーゼだと思つてゐても他から見れば單なるアンチテーゼに過ぎないと云ふ場合もあり、一口に中正の立場をとると云つても仲々難しいですね。

高橋 吾々は理論經濟學の經濟學を問題とするものであり、經濟學の理論を要求することと異なるものであるが、『經濟理論』の研究に於いては斯かる「經」の世界から「知」の世界へと移行しなければならぬのではないか。統計的現象の混沌から離脱して國國の統制經濟と云ふ生ける事實關係をば客觀的に把握しなければならぬのではないか。

私は經濟學に「國民」とか「政治的」とか云ふ形容詞を附せず、單に「經濟學」とか「經濟理論」と呼んで差支ないと思ふ。新しい世界觀の基礎から經濟理論に接近することは正しいが、これだけでは不充分だと思ふ。世界觀と經濟理論との間には、何か經濟學的な理論が介在しなければならぬ。即ち、一方では經濟は世界觀に密接すると云ふ理念を持つと共に、他方では經濟の經濟的要素に對して獨自の範疇を認識するが如き經濟理論の確立を必要とする。これがためには、統制經濟の行はれてゐる經濟的現實の中へ投入し、その間に於ける「理念」に留目して問題を一體的な形に於て統一的に處理すべきだ。これに反對するものは、獨立の學問としての經濟學の獨自性を否定するものと云へるでせう。理論は、何が存在し、何が必要であるか、何が否定されなければならぬかを決定するものであると思ふ。

丸山 さうするとさきほど高橋さんが云はれたやうに結局求心的な方法と遠心的な方向とは出發點が異つてゐるだけで、歸着する處は日本的性格の解明と云ふ點にあると考へられます。そしてもし從來一般的理論とされてゐたものが或る特殊的性格を明にし得なかつたとすれば、それは實は特殊理論に過ぎなかつたのでありそれをも包括したより高次の一般的日本經濟理論が確立されなければならぬと思ふ。最近論爭の對立や相剋が烈しく行はれてゐますが、その爲に反つて經濟科學の發展を阻害しはしないかと思ふ。論爭と云ふこと、それ自體は大いに歡迎さるべきですが、それが排擠や獨善となり論爭のための論爭になつてはならない。

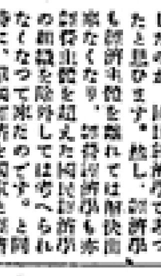
むしろさうした論爭を通じて相互に深く理解し合ひ發展し合ふと云ふ美はしい協力によつてこそ日本經濟學發展の途に資する多き成果を擧げ得るのではないかと考へます。この問題は非常に重要であります。まだ〳〵論じ足りない點が多々あると思ひますが、時間の關係上この邊で打切りとして次の經營經濟學の問題に移りたいと存じます。

二、經營經濟學か企業經營論か

＝經營學は國民經濟學に包攝さるべきか＝

丸山 從來大體に於いて經營經濟學として育つた經營經濟學が統制經濟の發展に伴つてその獨自の實體を失ひ國民經濟學の中に體系化されやうとする一つの傾向があるのではないか。もう一つはもしさうした危險をさけて獨自の研究領域をたてるとすれば、結局それは企業經營の管理とか組織に關する技術的人的技術の問題即ち技術論に限定されてしまふと云ふ危險が考へられると思ふのですが。かうした二つの面から經營經濟學の新しき方向について最近新しく纏められた工業經營の題目を於いて居られる室谷さんの御意見を御聞かせ願ひたい。

室谷 經營學がベトリーブスヴイルトシャフト（經營學）なりレーレ（理論）なりと云ふ問題は既に古いもので、一つは經營經濟學が元々國民經濟學の從屬科學として分岐して來たものですが、之が國民經濟學の中に包攝されようとしてゐる立場は經營經濟學です。いては、私は、經營經濟學は經濟主體を持つた原價經濟學で、經濟主體を持たない全體的經濟學に依つて問題としたのが、國民經濟學であつたと思ひます。然し、經濟學も經濟主體を離れては解決出來なくなり、經營經濟學も亦經營主體を超えた國民經濟學の組織を除外しては考へられなくなつて來たのです。と同時に、原價經濟を國家と經濟と關聯なしに解くことは出來なくなつて來ました。茲で經營學もザー・サイエンスに從屬されねばなりません。此の點に於て注目されたのは、我國では先覺の宮田喜代藏博士であらうと思ひます。宮田博士の立場は固い意味の統制經濟學、或は最近の言葉の名に見えてゐる通りの國家經濟學なのでせう。確かに經營學が國民經濟學に包攝される危險はありますが、二つに分岐したのはたゞ研究手段によつて起つたので、內容は同じだと思ひます。私はこの綜合經濟學に包攝されると云ふよりはむしろ經濟科學と云つた方が良いかも知れません。第二の經營經濟學の新動向は、決



に企業經營を先づ國家的立場に於て取扱ふと云ふことです。從來は會社、組合等の企業形態を取扱つて來ましたが、今では會社も國策會社、營團會社等の新形態が生れ、營團のやうな新しい企業形態の問題が起つて來ました。また、滿洲では公社といふ新形態が生れ、之を統制經濟と結びつける立場が作田博士の所論であらうと思ひます。

……經營經濟學は國民經濟學の一部になつて參りました。之は時代の要請であり、經營學の範疇的の問題です。工業のことになりますと、技術を知らないと實際問題の把握は出來ません。私は工業經營論の講義をして居りましても、工程管理、勞務管理等には技術を採り入れ、技術に精通して居なければ、統制經濟の問題になると、內心忸怩たるものがあります。左樣に根本的に技術を採り入れ、技術に精通し、根本に於ては經濟技術に結びつかなければならないと思ひます。また、ヘクトリアンヘ、シュマーレンバッハの如きは國策的經營學を分離學と殆ど一致させて居ります。まあ、これ等が經營學の新動向であらうと思ひます。

高橋 包攝されるのは「經營學」と云ふ言葉で表現するべきではないと思ひます。

室谷 まあ、さうですね。經營學化の過程と云つた方が良いかも知れません。

丸山 たとへば宮田博士の提に於ける、會社、國民經濟を三つのシヒトウング（視角）として考へれば經營經濟學も國民經濟學も一つの理論に綜合されるでせうが、然し又經營學と經濟學とではその觀點が違ふのではないでせうか。

室谷 あなたの說はシヒトウングと考へられるかどうかは疑問ですが、ゲゼルデなどとして見る限り根本は違ひません。ゴットルはこのゲゼルデの立場を主張して居り、先程經濟學を營利人なりと說く……等ではないでせうか。ゲゼルデから出發すると經營人を超えて全體を把握するものだと思ひます。

南 しかし私の云つたのはゴットルの經濟に從つてのことであつて、日本に於ける支持者達に關してのことです。

高橋 ゴットルを經營的に解釋すれば、經營經濟學的であるなどとは考へられません。

室谷 さうだ。よく最近アダム・スミスを個人主義者だと云ひますが、然し「經濟は國家よりも個人に重要なり」と云つて居り、其の立場では既に國家主義者だと云へます。

丸山 會計學は經營經濟學に含まれますか。

室谷 經營經濟學としてはもつと現實的なものを目標としなければならない。

丸山 然し經營經濟學は理論的であるとしても、やはり企業經營の組織とか管理とかの技術的な要素が相當多いのではないでせうか。たとへばコストの切下げとか賃金制度の問題とか。

高橋 あなたの云ふのは經營學的な技術ではなくて經營技術の方ですね。

丸山 さうです。狹い意味の技術です。最近大分技術論が喧しく云はれてゐますが、さきほど室谷さんの云はれた工學的な技術を經濟理論の中にどう云ふ風にとり入れるかが問題だと思ふ。これは先程より我々としてはさうした狹い意味の技術を取扱ふよりむしろその工學的な技術を經營の中で動かして行くための組織のいはば管理技術と云ふやうなものでなければならない。

室谷 技術も結局理論によつて實證けられなければ何もならないでせう。

三、貨幣經濟と實物經濟

＝貨幣論は經濟理論と如何に結びつくか＝

丸山 それでは經營經濟學の問題はそれ位に致しまして、次に貨幣及び金融の問題に移りたいと存じます。一般經濟學や會計の理論となると、どうも我々にとつて難解だと思はれる點が多かつたと思ふのですが、その一つの原因には從來の貨幣理論が經濟理論から遊離して、貨幣とか貨幣の機能面のみを研究して居つた點に求められると思ひます。そこに貨幣理論と經濟理論もしくは貨幣經濟と實物經濟との關聯が最近特に喧しく議論の對象とされなければならない必要があるのではないか。然し同じく問題を問ふとしてもそこには色々違つた見方が可能でありまた事實行はれてゐると思ひます。故に最近貨幣の處理的な貨幣理論への反省として、實物經濟の重視と共に、貨幣的要因が不當に輕視され勝ちであると云ふ危險があるやうに思はれます。かう云つた點について、また最近の貨幣論に於ける目覺ましき功績としての國家信用の創出をめぐつてハイエク、カーン、ケインズ等によつて展開された貨幣理論もしくは金融理論、などにもふれて一つ長尾さんの御意見を御願ひしたいと思ひます。

長尾 果して御期待に副ひ得る所の答へになるかどうか判らないが、とにかく申し上げて見ます。一體金融理論の發展は、申しましても、一つの理論が十分に熟さない內に次の新しい理論が登場されると云つた狀態ですから、次々に新しい說を鋭く吟味して見ると云ふことはなか〳〵難しいのです。最近の金融理論の大勢を見通すと云ふことは相當の勉力で初めて可能でありませう。

我國では高田保馬先生や中山伊知郎先生等にして初めてよくなし得るところと思ひます。今丸山さんの御話の中にあつた經濟理論からの遊離をどう解決するかと云ふ問題、又實物論、貨幣論との綜合と云ふ問題はずつと昔から論爭のメタリズム・ノミナリズム論爭の中にあつたので、始めて貨幣理論を經濟理論の中に結び付けたのはクナップの理論でした。……る「國定學說」が現れた。ところが……に於て貨幣・價格的な理論とのつながりをなしたのは……き代つて「貨幣ヴェール說」が現れたのである。之に對立して……は經濟循環論が貨幣理論と……に於て貨幣數量說の失敗、金融理論の發展へと向ひました。

そこへ一九三〇年代の世界恐慌を契機として從來の兩面の均衡が崩れたので、一般的には不完全雇傭の狀態についても考へるべきだと云ふ見解となつた。此の場合ケインズに於て金融と不況的局面とを結ぶ流動性選好の理論であつた。これも現實的には世界に於て未だ消化し切れない內に現在の戰爭に突入しここに一轉して完全雇傭が問題となる時期に入り、具體的な例としてインフレーション論や價格理論と云ふ樣なことが問題にされる時期となりました。此等の推移の跡を見ると實際的な必要に迫られて理論が益々に展開するのと、理論的な體系化の要求に促されて理論の綜合や統一が求められるのと、この二つの動力によつて理論が進められて來たと云へませう（南 [illegible]）。

統制經濟と價格理論

木曾 統制經濟の下に於てもなほ價格と云ふものがあると高田博士は考へられてゐるやうです。吾らも價格を安定比較のみ重視しないで之を「統制價格理論」として廣義に解するといふのです。

桑原さんは此の點に就て如何にお考へでせうか。

（以下二面へ續く）

北方の窓

道協力會議

第七回北海道協力會議は九月五、六の兩日、札幌で開催、提出議案は精神昂揚五、國民運動四、食生計畫二、勞務動員二十四、生產增强二十一、決戰生活十四、計七十五件で、時局柄勞務問題と食糧生產の隘路打開に論議集中、出席議員計四十七名。

石炭特別增送

京濱方面では非常事態に應じて北海道炭の大量輸送を行つてゐるので、札幌局では九月廿七日から一ヶ月間、青函間の貨車航送や機帆船中繼輸送を一段と强化して特別增送を行ふ。

木造船竣造へ

本道の木造船建造狀況は順調に進み、去る七月の竣造實績は隻數、噸數共道外にかの目標を超えたのであるが、今後更に大增產が企圖せられ……

道經では技術者不足に鑑み、道經濟工業專修學校の新設に頗る明年度開工業學校に總合科を設置することとなつた。

鋸屑の飼料化

現下の飼料難を克服すべく陸軍糧秣廠札幌支廠では江別町で鋸屑の飼料化を研究して成功、原料はエゾ松、トド松、ブナ、白樺、醱酵期間は約五日、醱酵菌の研究によつて蛋白質多く、濃厚飼料に劣らぬ馬、牛、豚、鷄の飼料に適し道では明年から工業化する由。

鐵工調整問題

札幌周邊に近い工業地帶には、新設大工場が建設され、多數の農業勞力を吸收して食糧增產に支障をきたすこと多いのでその調整が問題となりまだ徐々に緩和されてゐないが、今後に之を擴げ道商工經濟會、道農業會では調整に研究中。

（一面より續く）

長尾 無論統制經濟の下でも金融が存在する以上、價格は成立します。公定價格と云ふものも一つの特殊價格として認識すべきだと思ひます。

木曾 公定價格の決定は或る特定時に於ける市場價格を基準にしてゐることは否定出來ませんか。

高橋 本質的に價格が存在してゐるのではないですか。

長尾 無論統制經濟の下に於ても貨幣が存在する以上公定價格はあることはあるが、夫れも[illegible]又そこに色々と二重價格、三重價格と云ふ方法がとられて來るのを見ても明かで其れ等の點とも見るべき利子率や[illegible]も一つの特殊價格です。公定と云ふ文字にはクオリフィケーション（限定條件）をつけて考へなければならないと思ひます。又別の點ですが最近行はれてゐる所謂「金融統制」例へば資金調整計畫とかは、すべて物の動きに從つて、云ひ換れば物動計畫と云ふものを前提に決めてその通りに資金を動かすに過ぎないので實は、本當の意味の金融政策と云ふものは何も行はれて居らないと云つても良い。

丸山 どうも金融問題に就いては動もすると政治的な要素が働いて貨幣を第二義的に考へる傾向が多分にあると思ひますが。かうした在り方を生み出した責任の一半は理論の方にもあるのではないでせうか。

長尾 それは確かにあります。貨幣を無視すると云ふ一般の風潮がありますと學者の方がとかくこれに便乘した理論を作るのです。

丸山 殊に戰爭經濟の論議と云ふ[illegible]が行はれる場合には、無論貨幣的な研究のみに止まることは許されないにしても、それだからと云つてアーダマン[illegible]などのやうに貨幣の問題は第二義的な意味しか有たないとするのは非常に危險だと思ひます。[illegible]的な觀點をもち、少くとも今日の經濟[illegible]が近代的な[illegible]で本質的に條件づけられてゐるとすれば貨幣的要因を無視して經濟そのものを[illegible]することは[illegible]するにも陷入れることになるのではないでせうか。

例へば物價を唯政治的にのみ釘付けにすることも弊害を助けることになりませう。又必要な特定の物資を調達するためには價格を幾ら高くしても良いとするならば、それが一般物價の昂騰となり所謂換物運動になつて惡循環を惹起せしめると云ふ危險が起る。又かうした點のみならず利子理論等に於てもヴイクセル以來[illegible]が貨幣經濟の立場から實物利子を貨幣利率若しくは長期利率と短期利率とを區別して貨幣的要因を輕視して利子率を生産の側に從屬せしめると云ふ見方が行はれたりするのも共に貨幣經濟の本質を正しく摑んでゐないためであり、貨幣と實物とをバラバラに切離した機械的な見解が原因であると思ふ。

長尾 殊にドイツの金融論はナチスには金の否定と云ふ點で飛躍させられたと云ふ良い點もあるが又理論それ自體の發展を阻害した點も少くない。近時の實社會の動向に例をとれば、究極金融や貨幣の特質と云ふ樣なものは結局財の種類の[illegible]を檢討したと云ふ點に求められるのですから、例へば配給の問題にしても初めは[illegible]な個別的配給制度で[illegible]られたにも不拘、色々な不均衡が生じて漸次綜合的な配給に向つて來たと云ふのも謂はば金融の本質への方向に戻つて來た事を意味してゐると思ひます。

高橋 この點にはつきりと貨幣理論と經濟理論との融合の必然性を見せつけられてゐるではないか。事實の説明が物と金との媒介による經濟體系を要請してゐる以上理論がこれをバラバラに分解させて說く法はあるまい。

長尾 要するに金融理論の傾向と云へば初めは貨幣論の方向に經濟理論と結付けやうとして可なりに[illegible]つたのが[illegible]に是正されて[illegible]認めてゐる樣に[illegible]に陷らざるを得なくなり、ここに金融論への止揚が行はれて初めて經濟理論一般と結付き得る路がついたのです。[illegible]も此の一つの試みで何も十分には成功してゐないものだと思はれます。

四、財政學と政治經濟學

＝財政現象の本質とは何か＝

丸山 それでは金融の問題はそれ位にして次に財政の問題に移りたいと思ひます。先程から大分國家と經濟とか、政治的要素と經濟理論とかの關係が問題になつて居りますが財政學に於きましては初めからこれが根本の問題になつてゐるのであります。自由經濟の時代から既に財政は國民經濟若しくは[illegible]に於ける一種の統制經濟であつたと云ふ[illegible]とか[illegible]とかは認めてゐないと云へるからです。[illegible]部的な異立的な國民經濟を對象として居つたのであります。そして過去の財政理論の內容には一方に於ては國家の收支機構を如何にして維持するかと云ふ[illegible]を如何にして維持するか、即ち公共經濟を維持するには如何なる方法を採れば良いかと云ふ樣な技術論と他方に於ては國民の側から國家の負擔を如何にすれば公平に配分し得るか、例へば國民が租稅を納めなければならないのかと云ふ樣な一種の倫理論によつて大體占められて居た。云ひ換れば從來の財政學には本來の意味での財政の「理論」と云ふものは無かつた。假に[illegible]とか計畫とかと云つても結局は經濟全體から遊離した財政現象と云ふ側面に限られてゐたと思ふ。然し新しい戰時體制下の財政現象が[illegible]に變化して參り其處に新しい財政の「理論」が求められ、謂はば財政學の中心に據り入られざるを得なくなつて來たと云ふこの新しい動向は一應二つの流れに分けることが出來ると思ふ。一つは財政現象を經濟理論によつて把握しやうと云ふのともう一つは之を統合理論によつて統一しやうと云ふのです。勿論同じく經濟理論と云つても其の結び付き方や把握の方法は夫々の立場によつて色々と違つて參ります。[illegible]

[illegible]複雑多岐に亘つて居ります。又[illegible]な[illegible]を持つてゐる。そこで一體どこまでを財政學の研究領域とすべきか。即ち云ひ換れば財政學の中心概念は何かと云ふことが當然問題となつて來る。この問題を日本で最初に取り上げられたのが[illegible]先生であり、新カント學派[illegible]

[illegible]

日本的財政學の傾向

高橋 日本財政學と云ふものの研究はありませんか。

丸山 無論財政學に於ても最近そう云ふ傾向が大分あると思ひます。例へば[illegible]で九州帝大の三田村[illegible]が日本財政に[illegible]

[illegible]

五、經濟科學の境界線

＝理論と政策論とは如何に異るか＝

高橋 經濟からの論議の問題を靜かに反省して見ると、私が前に「緑丘新聞」に書いた「經濟學の分類と綜合」と云ふ問題が皆さんの[illegible]を得た樣に思はれます。そして經濟學は綜合化の途を辿ると考へるのですが、しかし綜合してしまつて一つの學問だけが殘ればそれで良いと云ふ事になるか、それとも依然として諸々の經濟的學問が存しなければならないと云ふ事になるのか。ここに[illegible]して置いた「規範性」の問題に觸るチャンスが到來した[illegible]

[illegible]

丸山 大分問題が盛澤山であちこちと話をうつり[illegible]食ひ足りなかつた點も多かつたと思ひますが、これは今後もつと問題を限定して[illegible]行くこととして、今晩はこの邊で終りたいと存じます。どうも有難う御座いました。

歸郷

八木　繁

死にぬべきいのちを生きて合掌の無縁佛の眉のすゞしさ

亡き父にみ供する日もなかりしか一生をおもひ精進を誓ふ　（墓參）

かはらざる背戸よ風よこの庭にまなびしころを思ひすがしむ

海見ゆる故郷の丘は風早く雲を散らして秋にかたむく　（母校）

海陸空いま學徒ゆけ大君の大御心におのれ現す

十九、八、三、母港にして　（筆者昭十八卒海軍少尉）

經濟に於ける倫理と政治

その理論的解明と限界の問題

荒　憲治郎

戰爭が[illegible]、[illegible]。[illegible]

[illegible]

以上論述した所により、[illegible]

[illegible]

苫米地校長先生還暦記念論文集刊行計畫成る

苫米地校長先生還暦記念事業の一として計畫中の記念出版は、今回「大東亞經濟建設の理論と政策」の論題の下に左記の如き豫定內容を以て具體化せられ、編輯委員高橋次郎教授を中心に刊行準備が着々進められつつある。

「大東亞經濟建設の理論と政策」（企畫案）

日本國體と大東亞建設
大東亞建設の倫理
大東亞の法的秩序
大東亞の國際法
日本經濟の大東亞指導體制
皇國地政學
大東亞の國土計畫
大東亞の資源
大東亞の工業化
大東亞の農業建設
大東亞の交易
大東亞の植民政策
大東亞の民族問題
大東亞の人口問題
大東亞の通貨政策
大東亞の貨幣金融
大東亞建設と企業形態
大東亞建設と公社

大熊信行　小尾範治　實方正雄　大平善梧　高橋次郎　金巻賢字　吉田秀夫　大友福夫　阿部武雄　木曾榮作　高岡熊雄　玉井武　上原轍三郎　板垣與一　中野清一　南亮三郎　大谷敏治　高島佐一郎　室谷賢治郎　山本安次郎

會員必携の書

緑丘會々員名簿　昭和十九年度用

殘部僅少に付至急御申込下さい

頒價金四圓（送料當方負擔）

社團法人　緑丘會　振替小樽三〇〇一番

「商學討究改題」

北方經濟研究　第十九卷　上冊

北方國研究

北方國の地政學的考察　高橋次郎
米國防衞の前哨地アラスカ　鳥谷剛三
アラスカへのルート　花村哲夫
北海道農業振興の研究　玉井武

島國經濟論　南亮三郎
既存統制會社の理論　岡本理一
工業立地に於ける國家的干渉　木曾榮作

北方經濟日誌（昭和十九年一月―五月）

定價約二圓半。目下印刷中十月下旬出來。

○振替にて申込まれ度し　振替口座小樽九〇五六番

研究所報

一、昭和十九年八月三十日午後一時　於研究所委員長室　本部打合會

打合事項

（イ）緑丘新聞編輯の件
　北方國の研究を參酌し、併せて緑丘新聞の新使命を達成する爲編輯方針の刷新強化に關し協議す

（ロ）研究所本來の使命を完遂し前日の研究成果の具體化に資するため、今後學內並に學外の識者の御參集を仰ぐこととし、先づ第一回の試みとして九月五日[illegible]

（ハ）「商學討究」誌改題の件

二、應召中の石[illegible]所員歸還す